

急性心不全患者における栄養学的指標の短期的変動は予後に影響するか

1. 研究の対象

対象：2017/10/1から2020/12/30までに心不全で入院された65歳以上の病客さま

除外：入院中に外科的介入となった病客さま/研究への参加同意が得られなかった病客さまなど

2. 研究目的・方法

a) 目的

これまでに心不全と低栄養が併発すると予後が悪いことが先行研究により報告されています。

そこで当院でも心不全病客さまが、低栄養をきたさぬよう、入院中の食事や必要にお薬などを使用しつつ、エネルギー不足を回避しつつ栄養を適切に摂取できるよう多職種で様々な介入を行っています。しかし、入院中のこれらの介入が、どの程度心不全病客さまの予後に寄与しているかははっきりと分かっていません。

そこで本研究では急性心不全で入院された病客さまを対象に入院時と退院時の栄養状態を比較し、その差が退院後の生活や予後にどのような影響を与えているかを調査・検討致します。

b) 方法

①入院時と退院時の栄養状態を比較

[栄養状態の評価には様々な方法があり、本研究では通常の血液検査から得られる数種類のデータを複合的に使用した評価法を主に使用します。]

②退院時の栄養評価が入院時と比較し改善した群(改善群)と改善のなかった群(非改善群)に分別

③改善群と非改善群で予後(再入院や死亡など)に差があるかを調査します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録より入院時に検査をされた、血液検査・心臓エコー・身体機能・認知機能などを調査します。

4. 外部への試料・情報の提供

外部への情報提供はありません。

5. 研究組織

心臓病センター榎原病院

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて病客さまもしくは病客さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先まで 2023 年 12 月 31 日までにお申出ください。

その場合でもその後の診療など病院サービスについて病客さまに不利益が生じることはありません。

[照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

心臓病センター榎原病院

住所：岡山市北区中井町 2-5-1/電話：086-225-7111

担当・研究責任者：奥村 佳史(薬剤部)